

2022年、大きく下落した世界の債券市場

～金利上昇下での債券投資について今一度考える～

2022年、欧米を中心に債券価格が大きく下落し、同年の世界債券の騰落率は▲18.3%と、過去30年で最も大きな下落となりました【下左グラフ】。

この下落の主な要因は、欧米で急速に進むインフレを抑制するため、各国の中央銀行などの金融当局が、金融引き締め政策として相次いで利上げに踏み切ったことが挙げられます。

債券は市場金利によって取引価格が変動する

債券とは、発行体が債務不履行とならない限り、満期日になれば額面金額が返済され、一般に満期までの間、定期的に利子の受け取りが期待できる金融商品です。ただし、債券の取引価格は満期までの間、市場の金利動向に応じて変動します。債券は一般に利子が固定されているため、市場金利が上昇すると投資対象としての魅力が薄まり、債券価格は下落します。

米国の中央銀行に相当するFRB(連邦準備制度理事会)は、政策金利であるFFレートをコロナ・ショック時に大きく引き下げ、以来0.25%(上限値、以下同じ)で維持していましたが、インフレ進行を抑制するために、2022年3月に引き上げを開始し、同年末にFFレートは4.5%に到達しました【下右グラフ】。なお、市場では、今後、政策金利の引き上げ幅は見直されるものの、政策金利の引き上げはしばらく続くと予想されています。

2022年3月から12月末までの政策金利の引き上げ幅は4.25%ポイント(4.5-0.25)と、大きさを実

感しづらいかも知れませんが、変化率で見ると18倍(4.5÷0.25)と非常に大きく、かつ、10ヵ月程度という短期間で実施されたことから、債券市場はかつてないほどの下落に見舞われました。

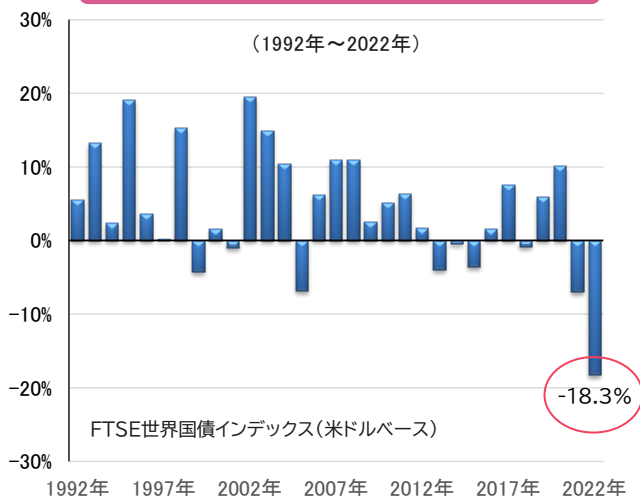
また、欧米各国で政策金利が同時期に引き上げられたことや、国債を大量保有している金融機関や機関投資家が、損失回避のために半ば強制的な売却に踏み切り、売りが売りを呼ぶ中で急落した側面もあったと考えられます。

債券投資とどう向き合えばよいのか

中央銀行は、金融政策の柱にインフレターゲット(目標インフレ率)を据えており、この先、物価上昇が落ち着きをみせれば、政策金利の引き上げ姿勢を緩め、景気動向によっては引き下げに転じると見込まれます。政策金利が引き下げられれば、債券価格は上昇に転じるとみられますが、急激に下落した後だけに、投資家心理の回復には時間を要するとみられます。

このように、債券価格は金利動向で変動する一方で、定期的な利子の受け取りや満期(償還)時の額面金額の返済が期待できます。足元で、米国長期金利は落ち着きを取り戻しつつありますが、いまだに高い水準です。そのため、この先の債券投資では、相対的に高いインカム(利子)収入が期待できる上に、市場金利の低下余地が大きく、金利低下に伴う債券価格の上昇も期待できると考えられます。

世界債券の騰落率(年次)



(ポイント)

米国の債券と金利の推移



●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ●上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。